

木澤禮陰 しきざは 舊以松本藩儒。天保二年四月十一日信濃國松本生れ（八三二一）。講成齋、禮と修す、通稱鼎藏。藩儒木澤天齋の長子。少壯江戸に赴き、安積良齋 あんせき、鹽谷宕陰 しんがいん に學ぶ。文久四年藩塾教授、のち江戸詰となり藩の子弟を教ふ。慶應二年昌平坂學問所教授方を命ぜられ、明治五年神祇官出任、翌年教部省中講表、十一年東京外國語學校國書教員。その後又部屬、大谷派普通中學校教授、妙心寺高等中學校漢學教授。二十年には陸軍幼年學校教官に任じ、嵯峨侯爵家の節傳を務必

著書に『小學訓蒙軌範要解』（明治十一年二月金港堂）、講評『謝選拾遺評林』全五冊（山陽頼襄子成京選、明治十五年一月大阪・中尾新助出版、四書房梓）等。

